2020 年 3 月 24 日

報道関係各位

一般社団法人電子情報技術産業協会

「第 5 回 JEITA ベンチャー賞」受賞 8 社が決定
― Society 5.0 の実現に向けた、ベンチャー企業との共創・連携を促進 ―

一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA：代表理事/会長 遠藤 信博）は、本日、「JEITA ベンチャー賞」の受賞企業、8 社が決定したことを発表しました。JEITA ベンチャー賞は、電子情報技術産業の総合的な発展のみならず、経済発展に貢献しうるベンチャー企業を表彰するもので、過去には株式会社 Preferred Networks や株式会社 MUJIN、株式会社 ABEJA など気鋭のベンチャー企業、計 24 社が受賞しており、本年が 5 回目の取り組みとなります。今回も「JEITA ベンチャー賞審査委員会」が成長性（先導性）、波及性、社会性の 3 つの視点からベンチャー企業を審査・選考した結果、第 5 回 JEITA ベンチャー賞は株式会社アラヤ、株式会社 AI メディカルサービス、株式会社サイキンソー、ダイナミックマップ基盤株式会社、株式会社ノベルクリスタルテクノロジー、PicoCELA 株式会社、株式会社ボスコ・テクノロジーズ、株式会社リモハブの 8 社が受賞しました。

JEITA では現在、Society 5.0 の実現を事業指針として、CPS/IoT の社会実装による新たなビジネスの創出を目指し、各種事業を展開しています。JEITA ベンチャー賞はその取り組みの一環であり、IT・エレクトロニクス業界の発展に繋がるベンチャー企業を支援するとともに、JEITA 会員企業とスタートアップ（優良ベンチャー）企業との共創・連携・エコシステムの構築支援を目的としたものです。受賞企業が JEITA への入会を希望する場合は、「ベンチャー優遇特例制度」（JEITA ベンチャー賞を受賞した企業等が正会員として新規に入会する場合、申請により協会会費の負担を 2 年間免除する仕組み）を活用することができます。

今回受賞した 8 社のベンチャー企業は今後、JEITA の活動に参画いただくほか、Society 5.0 の実現を目指す CPS/IoT 総合展「CEATEC」への出展や JEITA が主催するシンポジウムやセミナーなどへの登壇、さらには JEITA 会員企業との交流支援などの特典が授与されます。

JEITA はベンチャー企業との共創・連携を促進し、Society 5.0 および CPS/IoT の社会実装をさらに推進していくことで、わが国が直面する社会的課題の解決と新たなビジネスの創出を目指してまいります。今後の取り組みにつきましては、随時発表いたします。

【本件に関するお問合せ先】
一般社団法人電子情報技術産業協会(JEITA) 経営企画本部 政策渉外部 広報室
TEL：03-5218-1053　E-mail：press@jeita.or.jp

第5回 JEITAベンチャー賞 受賞企業

JEITA ベンチャー賞

株式会社アラヤ

https://www.araya.org/

ARAYA

設立年月日：2013年12月9日
所　在　地：東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル 24階
代　表　者：金井 良太（代表取締役社長）
従 業 員 数：49人
業　　種：AI・情報技術分野

事業概要

以下の3事業におけるAI アルゴリズム・プロダクト開発

1.ディープラーニング事業

高い画像認識技術を有し、製造業や自動車の自動運転、農林水産のデジタル化関連の開発実績を多数有する。

2.エッジAI事業

精度を維持しながら、AIモデルを最大約1/30に圧縮・演算量を削減する特許技術を有しており、これにより、自動車・スマートフォン・ドローンなどのエッジデバイス上でAIを動かすことを実現する。また、AIの圧縮・CPU/FPGAへの実装プロセスを自動で行うソフトウェア製品「Pressai（プレッサイ）」を2020年3月にリリース予定である。

3.自律AI事業

深層強化学習を活用し、人が教えなくても、ロボットやドローン、建設機械、空調システムなどが状況を自ら判断し、与えられたタスクを遂行する（「自律的」に動く）ことができるような技術・プロダクトの開発を推進している。

審査評価

株式会社アラヤは、高い画像認識技術をもつディープラーニングの技術を開発し、製造業、通信、農林水産関連分野等への事業展開を行ってきた。さらに、当該技術をベースにして精度はほぼそのままに、AIモデルを1/30に圧縮することにより、演算量の削減を可能にする技術を確立し、状況を自ら判断し自律的に動かせる技術・プロダクトの開発を可能にした。今後、自動車、スマホ、ドローン、FAロボット、カメラ等の5G世代のエッジデバイスへの適用が期待される。よって、JEITAベンチャー賞に相応しい企業と判断した。

第5回 JEITAベンチャー賞 受賞企業

JEITA ベンチャー賞

株式会社AIメディカルサービス

https://www.ai-ms.com/

設立年月日：2017年9月1日
所　在　地：東京都豊島区南池袋1-10-13 荒井ビル 2階
代　表　者：多田 智裕（代表取締役CEO）
従 業 員 数：37人
業　　種：医療・健康分野

事業概要

内視鏡の画像診断支援AI（人工知能）の開発

「内視鏡AI」に特化し、消化器すなわち「食道・胃～小腸・大腸」に対する内視鏡検査で、病変の検出・診断を支援するシステムの実現を目指しています。医療という責任ある現場で「本当に使える製品」を実現し、最初から「世界」を見据えて、世界の患者を救うことに専心しています。

審査評価

株式会社AIメディカルサービスは、胃がん検診の指針改訂にともない検査画像数が膨大化する対策型胃内視鏡検診におけるクラウド型内視鏡AI診断支援システムを開発し、がん等の可能性のある要注意箇所を熟練の専門医と同等の精度で自動検出する二次読影支援サービスを進めている。世界トップクラスの医師たちの教師データを基盤としたAI技術開発により99パーセントの検出率を達成し、国内はじめ海外への展開も進めようとしており、市場性・社会貢献も期待される。よって、JEITAベンチャー賞に相応しい企業と判断した。

第5回 JEITAベンチャー賞 受賞企業

JEITA ベンチャー賞

株式会社サイキンソー

https://cykinso.co.jp/

Cykinso

設立年月日：2014年11月19日
所　在　地：東京都渋谷区代々木1-36-1 オダカビル 2階
代　表　者：沢井 悠（代表取締役）
従 業 員 数：15人
業　　種：医療・健康分野

事業概要

人の腸内細菌叢（腸内フローラ）のDNA検査、AI解析サービスの「MyKinso（マイキンソー）」の開発、提供を行うヘルスケアベンチャー。大阪大学微生物病研究所との共同研究成果により腸内細菌叢の検査・解析技術を「安価、迅速、正確」に実施できるプロセスを確立。国内最大規模の1.5万検体の検体データ（2019年12月時点）を保有している。今後、蓄積した膨大な検体データをビッグデータのAI解析することで様々な「未病」を検知し、未病予防／改善を促すことで健康寿命の延長の貢献を目指す。

審査評価

株式会社サイキンソーは、人の腸内フローラ（細菌叢）をDNA検査で明らかにし、さらにAI解析により、様々な病気についての可能性や未病段階での予防／生活改善に関する助言を提供するサービスを事業化している。個人の違いがあり多様性の高い生物データに対して、次世代型シーケンサーやAIなど医療・健康分野の情報技術を活用し、コスト・スピードを改善するだけでなく、正確性の高い健康管理プラットフォームの開発・確立を目指しており、高齢者の人口割合が増加する中で、病気前の段階での信頼性の高い健康管理の実現が期待できる。よって、JEITAベンチャー賞に相応しい企業と判断した。

第5回 JEITAベンチャー賞 受賞企業

JEITA ベンチャー賞

ダイナミックマップ基盤株式会社

https://www.dynamic-maps.co.jp/

DYNAMIC MAP PLATFORM

設立年月日：2016年6月13日
所　在　地：東京都中央区日本橋室町4-1-21 近三ビル 6階
代　表　者：稲畑 廣行（代表取締役社長）
従 業 員 数：49人
業　　種：モビリティ分野

事業概要

- 全国自動車専用道路に係るダイナミックマップ協調領域及び高精度3次元地図データの生成・維持・提供
- 高精度3次元地図データを用いた多用途（インフラ維持管理、防災・減災等）向けビジネスの展開
- 海外向けビジネスの展開
- 一般道整備に向けたビジネスの展開

審査評価

ダイナミックマップ基盤株式会社は、高度な測位技術を用いることによりcmクラスの精度を実現する高精度3次元地図データの生成・統合化技術を開発し、全国高速道路・自動車専用道路の自動走行用地図への事業展開を推進してきた。さらに、北米をはじめ海外展開の整備を進めるとともに、欧州などへの今後の展開も見据えて、本分野での世界標準化に貢献してきた。同社が開発した3次元地図データは、今後自動運転車両実装による実証実験に適用されるとともに、除雪分野やインフラ分野などにも、利用拡大が期待される。よって、JEITAベンチャー賞に相応しい企業と判断した。

第5回 JEITAベンチャー賞 受賞企業

JEITA ベンチャー賞

株式会社ノベルクリスタルテクノロジー

https://www.novelcrystal.co.jp/

Novel Crystal Technology, Inc.

設立年月日：2015年6月30日
所　在　地：埼玉県狭山市広瀬台2-3-1
（タムラ製作所狭山事業所内）
代　表　者：倉又 朗人（代表取締役社長）
従 業 員 数：38人
業　　種：製造分野

事業概要

- 酸化ガリウム（β-Ga_2O_3）単結晶基板、エピウエハの開発・製造・販売
- 上記材料を用いたパワーデバイスの開発・販売

審査評価

株式会社ノベルクリスタルテクノロジーは、次世代パワーデバイスとして期待されている酸化ガリウム（β-Ga_2O_3）の大口径単結晶製造技術や基板上へのホモエピタキシャル成長技術を確立し、デバイス事業への展開を進めている。酸化ガリウムは、パワーデバイスの高耐圧、低損失、高周波駆動、高温動作などの高性能化と低コスト化を同時に実現できる高いポテンシャルを有し、さらには耐過酷環境デバイス、高感度イメージセンサー、シンチレータなどの新たな応用展開も期待できる。よって、JEITAベンチャー賞に相応しい企業と判断した。

第5回 JEITAベンチャー賞 受賞企業

JEITA ベンチャー賞

PicoCELA株式会社

https://www.picocela.com/

設立年月日：2008年8月8日
所　在　地：東京都中央区日本橋人形町2-34-5 SANOS日本橋 4階
代　表　者：古川 浩（代表取締役社長）
従 業 員 数：21人
業　　種：AI・情報技術分野

事業概要

PicoCELA社は、第5世代移動体通信や無線LANなどの基地局を互いに無線で多段中継する技術（PicoCELA無線バックホール）を有しています。高い安定性を誇るPicoCELA無線バックホールにより、基地局敷設に必要なLANケーブル配線量を9割以上削減可能とします。技術のベースは産学官連携プロジェクトでの研究開発成果であり、30件以上の発明によって支えられています。これまでに4000台以上の製品を販売、国内に200か所を超える導入サイトを有します。

審査評価

PicoCELA株式会社は、通信アクセス・ポイント間を無線メッシュで多段中継する技術を開発し、工場内や建設現場、商業設備、イベント会場などにおける無線通信環境を提供している。ケーブル配線工事が不要で、無線環境を手軽に構築できる特徴があり、現在は、WiFi中心に実績を積みつつあるが、次世代通信技術5Gのうち、地域あるいは設備に特化したBtoBサービス（いわゆるローカル5G）において極めて重要な基盤技術になると期待される。 5Gの普及と共に採用実績の拡大が見込まれる。よってJEITA、ベンチャー賞に相応しい企業と判断した。

第5回 JEITAベンチャー賞 受賞企業

JEITA ベンチャー賞

株式会社ボスコ・テクノロジーズ

http://www.bosco-tech.com/

BOSCO Technologies

設立年月日：2012年2月29日
所　在　地：東京都港区西新橋1-6-13 虎ノ門吉荒ビル 4階
代　表　者：林 經正（代表取締役）
従 業 員 数：25人
業　　種：セキュリティー分野、AI・情報技術分野、
その他の分野（※ソフトウェア開発等含む）

事業概要

ITシステムコンサルティング、テクノロジーマーケティング、システム開発、製品開発・販売、研究開発

審査評価

株式会社ボスコ・テクノロジーズは、Proxy型Gatewayとして機能するSmart Gatewayを開発し、ユーザ操作の詳細なログの取得にとどまらず、機器などのアクセスの制限など、種々の機器の制御の統合管理を可能とした。同社の製品はメガバンク2行や官公庁や自治体をはじめ、大手通信事業会社における10万台の機器管理においても全面採用されており、機器の導入・運用に関わる手間とコストを削減することで、多岐にわたる課題解決に貢献すると期待される。よって、JEITAベンチャー賞に相応しい企業と判断した。

第5回 JEITAベンチャー賞 受賞企業

JEITA ベンチャー賞

株式会社リモハブ

https://www.remohab.com/

設立年月日：2017年3月10日
所　在　地：大阪府吹田市江坂町1-23-19
代　表　者：谷口 達典（代表取締役CEO）
従 業 員 数：14人
業　　種：医療・健康分野

事業概要

IoT技術を活用することで、在宅で適切なリハビリテーションを実施できる遠隔医療システム「リモハブシステム」の開発に取り組む大阪大学発ベンチャー。本システムは、患者の負荷状態をモニタリングする「アプリ」、心電波形を取得する「ウェアラブル心電計」、IoT化させた「スマートエルゴメーター」で構成。患者が本システムを在宅で使用することで、医療機関にいる医療従事者が遠隔で在宅患者をモニタリングし、従来の医療機関で行う心臓リハビリテーションと同等の効果をもたらす環境を構築。クラウドを介して在宅から生体データを医療機関に遠隔送信し、医療機関からはデータを元にした指導・管理を行うことができる。

審査評価

株式会社リモハブは、IoT技術を活用して在宅での適切なリハビリテーションを実現できる遠隔医療システムを提供する事業を進めている。高齢者に多くみられる心不全患者はリハビリのための頻繁な通院が困難であるが、在宅にてリハビリ中の患者の負荷状態や生体データ（心電波形）を医療機関に遠隔送信し、適切な指導管理を行えば、継続的なリハビリが可能となり、患者のQOLの向上や医療費削減につながるため、高齢化社会における今後の貢献が期待できる。よって、JEITAベンチャー賞に相応しい企業と判断した。